

少年センターだより

平成31年3月5日
発行
日野町少年センター
日野町河原1丁目1番地
TEL/FAX 0748-53-1325
<http://www.rmc.ne.jp/h.g-s.c/>

「通学区域の柔軟化対応モデル事業」の融合

西大路小学校

校長 正野 新造

国道を走行していると、「地域の宝★西大路小学校」と体育館に書かれた大きな看板を目にすることが出来ます。この言葉を裏付けるように、本校では、地域の教育力を基盤に、地域に根差した教育活動を行っています。また、各学年一クラスで少人数ということもあり、この少人数を利点としたきめ細やかな教育実践を行っています。

その一例として、「合唱指導」が挙げられます。十年余り前よりNHK音楽コンクールに出場しており、それに向けて高学年を中心に合唱に取り組んでいます。十一月十日には、「全校綿向山登山」を実施し、上級生が下級生に心を配りながら、全校児童全員が登頂しています。また、米作り、炭焼き、茶摘み、毛筆、かるた、日野祭囃子など地域の協力により経験できる取組が数多くあり、こうした教育を支えているのが地域の教育力に他ありません。

日野町では、平成二十二年度より、「通学区域の柔軟化対応モデル事業」が実施されました。当初は、西大路地区出身の方で現在は日野地区に住まわれている方が、この事業を受けられました。その後、この事業が次第に認知されるようになり、本校の少人数を生かした教育の場で我が子を学ばせたいと考えられる保護者の方が増え、現在では、十数名のお子様がこのモデル事業を活用して通われており、本校児童の四分の一を占めるに至っています。こうして一学級の児童数が増えることにより、少人数の中の多様性が生まれてきます。

一人ひとりの個性を尊重するとともに、子ども達の様々な考えを引き出し、一つにとらわれない自由な発想が可能となり、豊かな人間関係を築く礎となっています。また、保護者の方は非常に協力的で、日常の教育活動は勿論、PTA活動にも主体的にご参加頂いています。こうして新たに輪に入って頂き、西大路の伝統を受け継ぎながら融合し、少人数を生かした教育が今後も推進できるように努めていきたいと考えています。



薬物乱用は「ダメ、ゼッタイ。」



薬物乱用防止教室を、日野高校で12月19日に、各小学校で2月に5回開催しました。日野高校では全校生徒を対象に、びわこ成蹊スポーツ大学教授の谷川尚己氏をお迎えして、薬物乱用防止について講演していただきました。薬物乱用による体への影響や、一度薬物に手を出すと止められなくなる話等詳しく教えていただきました。

小学校では6年生を対象に日野町少年センター、日野ライオンズクラブ、東近江警察署が協力して開催しました。子どもの頃からの「酒、たばこ」による弊害についてや、薬物乱用の恐ろしさについて、パワーポイントや啓発DVD、腹話術を使って子ども達に分かりやすく説明しました。



日野高校での薬物乱用防止教室

東近江警察署からは、薬物での逮捕やたばこ等で補導される事があるので、しっかり社会のルールを守って欲しいと話がありました。薬物乱用防止教室に参加した子ども達は「薬物は絶対に手を出してはいけないものだ」という事が良くわかりました」と話していました。今回学んだことを心に留め、薬物に遭遇する事があっても「ダメ、ゼッタイ。」の気持ちで薬物を断る勇気を持って欲しいです。



小学校での薬物乱用防止教室

子育て小窓

ここ数年の文科省の調査によれば、小学校での暴力行為の発生件数が増加し、SNSを発端とした犯罪被害や「JKビジネス」などに代表される未成年者で有ること自体を商品化するといった社会問題と絡んだものも増えているとのことです。私たちはこのような状況に遭遇すると、まずは仲間関係や家族の養育に原因を探そうとしがちです。確かに問題に至った経過の中では大事なポイントではあるでしょう。ただ、それだけではじっくりこず、なんとなく本人を理解しづらくなる感覚を持つこともあります。本人は問題行動を通じて何をしようとしているのか、何を訴えているのか。一見よくない出来事の中にどんな意味があるのか、ポジティブな側面はあるのか…。

問題行動に制限・規制をかけるような『剛』の関わりと共に、行動の意味を探す『柔』的な関わりをバランス良く創っていけると、より一層子どもたちが理解されているという安心感を抱くようになるのではないのでしょうか。

日野町子育て・教育相談センター S

活動予定

- 3月14日(木) 補導委員会幹事会
- 4月 1日(月) 補導委員会総会
- 17日(水) 県青少年補導センター連絡協議会総会
- 24日(水) 少年補導センター・あすくる職員合同研修会
- 第2、4木曜日 図書調査
- 毎週金曜日 街頭補導
- 毎週火曜日 朝のあいさつ運動(新学期から)
- 週1回 学習支援IPPO(一歩)
- センター職員随時パトロール

子ども達の健やかな成長を願って

～少年補導委員がペープサートで啓発活動～

日野町少年補導委員会では平成25年度から、幼稚園等でペープサート（紙人形劇）による啓発活動を始めました。当時不審者情報があった事から幼児期から誘拐防止を呼びかけようと、子ども達の安全を守るため「知らないひとにはついていかない」という演目で防犯教室を開催してきました。そして、平成27年度からは非行防止にも取り組みたいと「おみせのものをとったらどろぼうですよ」という演目で万引き防止教室を開催してきました。



子ども達にちゃんとあやまる事を教える様子

活動を続ける中で、補導委員からいじめの防止にも取り組みたいという声上がり、6年目を迎えた今年度新作にチャレンジ、台本作りから始めました。何回も補導委員で話し合いを行い完成したのが「こんなとき、ちゃんとあやまれるかな」と題したいじめ防止のペープサートです。そして紙人形を大きくし、更にパワーアップしました。



舞台裏で紙人形を操る補導委員

教室では熊の着ぐるみを登場させる等、子ども達の関心を高める工夫をしながら、町内の幼稚園、保育園、こども園で公演を行っています。また、ペープサートを通して少年補導委員を知ってもらうことも目的の一つで、小学校や中学校へ行っても困ったことがあれば、地域の少年補導委員に声を掛けてもらえるような関係を築いていけたらと思っています。

また、ペープサートを通して少年補導委員を知ってもらうことも目的の一つで、小学校や中学校へ行っても困ったことがあれば、地域の少年補導委員に声を掛けてもらえるような関係を築いていけたらと思っています。

子育て講演会開催

2月21日（木）日野公民館で日野町子育て・教育合同研究会、日野町PTA連絡協議会、日野町少年センター主催の「子育て講演会」が開催されました。講師には社会活動家で法政大学教授の湯浅誠氏を迎え「子どもの貧困と地域づくり～次世代に遺す“まち”を考える～」をテーマに講演いただきました。子どもの貧困が7人に1人とされている今、地域の住民に何が出来るのか、そして、子ども達とどのように関り繋がっていけばいいのかお話ししてくださいました。

会場には、子育て中の方や、学校関係者、地域で子ども達と関わっている方等約220人が集まり、熱心に湯浅氏の話に聞き入っていました。参加された方からは「子ども達の支援を難しい事と思わず、自分達が得意な事やできる事をしていったらいいのだなという事がよくわかりました」「子ども達との関りやつながりを地域住民がもっと考えていかなければいけないと思いました」と話されていました。この講演を機会に、日野町で子ども達と地域をつなげる輪が広がっていく事を願っています。



負担感が吹っ飛ぶ「やりがい」

日野町少年補導委員 竹村 一男

今年度はペープサートでの啓発を7会場で行います。特に、今年度は新作にチャレンジし、補導委員のメンバーで試行錯誤しながら苦労してようやく完成することが出来ました。ペープサート啓発は1回の公演で8名くらいのメンバーが必要となります。平日に行かなければならない事や当日だけでなく事前に練習を行わなければならず、大変な負担となります。しかし、ペープサート啓発を園児たちが真剣なまなざしで楽しく見ている姿を見ると「やりがい」が感じられて、負担感も吹っ飛んでしまいます。そして園児たちのこれからの大切な人間関係形成に少しは役に立っているのではと思いつつ、今後も地道な活動を続けられたらいいなと思っています。（ペープサート部長）

つぶやき



年末のパトロールで見た風景から感じたことです。前日に降った雪の量が巡回する各地域で差があり、同じ日野でもこんなに違うのかと驚きながら青パトを走らせていました。年末という事もありどこの家でも大掃除をと思っていましたが、寒い日だったので外で出会う人は無かった中、ある地域で…ええ！凄いい！ハッ！と良き光景を目にさせて頂きました。みぞれ混じりの寒い中で腕まくりをし、玄関先の拭き掃除を手伝う小学校1年生くらいの男の子を目にし、親子のホットな関わりが出来ているんだなあ～と感じさせて頂いて温くなりました。

子どもがお手伝いをするという何気ない日常が、子どものやる気や成長を促し、更には親子の絆を深めていくものだと思います。そんな、暖かな日常の積み重ねが、良い親子関係を作っていくのだろなと思いつつ、ホットな風景を後にし、次のパトロール場所へと向かいました。

日野町少年補導委員 河副 正美

ひとりで悩まないでまずは相談を!

少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごとの相談を行っています。本人だけでなく、家族の方の相談も受けています。お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

○電話相談 ○面接相談

○相談時間：月～金 9:00～16:30

電話 0748-53-1325

E-mail hino.t-syonen@rmc.ne.jp

日野町少年センター（日野町勤労福祉会館 2階）